



成長を見守ってきた生徒達の卒業を心こめて祝います

食を考える会の皆さんが、飯館中学校の3年生に、「卒業祝い菓子」を贈りました。祝い菓子は、会員の皆さんが、贈呈の前日に手作りした、顆粒大豆と白ゴマ入りのクッキーです。

代表の齋藤幸成さんに祝い菓子を手渡した菅野一代会長(比曾)は、「別れがあつて出会いもあるのですよね。皆さんとまた笑顔で会えますように」とはなむけの言葉を贈りました。

「しあわせカフェ川俣」の皆さんが、佐藤洋子さん(二枚橋・須萱)の自宅のキッチンで、イチゴのジャムづくりを楽しみました。佐藤さんがご主人と営む「いたていちごランド」のイチゴは、程よい酸味が、ジャムにぴったりです。ホットケーキを焼き、ヨーグルトも準備して、つくりにたてのジャムを味わうと、そのおいしさに思わず感嘆の声。にぎやかな会話がいつそうはずみました。



ジャムを煮詰めるとキッチンには甘い香りでいっぱい



クマを型どったクッキーにメッセージを添えました

食を考える会



しあわせカフェ川俣



瓶詰めしたジャムはそれぞれの家庭へのお土産です



各行政区に5本のバラを植え、通路は石で飾りました

いいはなプロジェクト



飯館村社会福祉協議会



感謝の言葉を添えて、だんご汁を手渡しました



前月につけた裏山の階段。登ると花壇が見渡せます

東京大学の大学院生らで活動する「いいはなプロジェクト」は、大久保金一さん(小宮)が自宅周辺で取り組む花園づくりに協力しています。メンバーの就職などで活動が最終盤を迎える中、34人が現地を訪れ、2日間をかけて、約4アールの農地に村の形の花壇を完成させました。花壇は水仙で縁取り、電飾の小花で20行政区を描き、バラ約100本を移植しました。

村の社会福祉協議会が、「飯野つるし雛まつり」の会場で、来場者にだんご汁を振る舞いました。事務所の村内移転を前に、6年間お世話になった飯野町の皆さんへ、感謝を伝えたいと実施したものです。地元商店街で材料を購入し、カボチャやキノコをたっぷり入れて、250人分を用意しました。「ありがとう」「ごちそうさま」と声を掛けられ笑顔の交流が続きました。



中学生など村民の作品も毎年展示いただいています